

2019年2月4日“風疹の日”宣言

—「風疹ゼロプロジェクト」—皆で力を合わせて

■30～50代の男性に強く訴えます！

あなたがかかった風疹が職場、家庭で妊婦に感染させる危険性を自覚してください。

(あなた方の世代に風疹患者が特に多く発症しています)

■全国の事業者と一般の皆さんに強く訴えます！

風疹抗体検査、予防接種(MRワクチン)がこの世代に実施されるようただちに行動をとってください。

*わが国でまた風疹が流行しています！！

妊娠20週頃まで(主に妊娠初期)に風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性風疹症候群になるおそれが生じます。

*風疹が流行している地域への海外渡航は風疹ウイルスに感染するリスクがあります。

渡航の際は事前にMRワクチンを接種するなど万全の風疹予防対策をとってください。

また帰国後に発症して周囲に風疹を感染させることもありますので、十分に注意してください。

—2019年2月“風疹ゼロ”プロジェクト—

平成31年1月31日

各位

公益社団法人日本産婦人科医会
会長 木下 勝之
副会長 平原 史樹



“風疹ゼロ”プロジェクト ご協力をお願い

本会では、先天性風疹症候群児の出生をゼロにし、風疹の完全抑制を目標とした活動を進めております。そこで2016年夏より厚生労働省をはじめ、行政、各種団体等、皆様方のご理解、ご支援のもと、『“風疹ゼロ”プロジェクト』を立ち上げました。

おりしも昨年2018年夏から再び風疹が流行しておりますが、本年も2月4日の『風疹（ゼロ）の日』を中心に、2月を“風疹ゼロ”月間と定め、多くの関係者の方々のご賛同により、一斉に情報発信、啓発活動を進めていただきたく、ご協力のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

“風疹ゼロ”プロジェクト

代表	木下 勝之	(日本産婦人科医会会長)
作業部会代表	平原 史樹	(日本産婦人科医会副会長)
作業部会副代表	大石 和徳	(国立感染症研究所感染症疫学センター長)
作業部会	奥田 美加	(日本周産期・新生児医学会)
	久保 隆彦	(日本産科婦人科学会)
	倉澤 健太郎	(日本産婦人科医会)
	多屋 馨子	(国立感染症研究所感染症疫学センター室長)
	細矢 光亮	(日本小児科学会)
	峯 真人	(日本小児科医会) (50音順)

*平成30年度日本医療研究開発機構・感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業、ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究班

2019年2月4日“風疹の日”宣言

—『“風疹ゼロ”プロジェクト』— 皆で力を合わせて

- 30～50代の男性に強く訴えます！
あなたがかった風疹が職場、家庭で妊婦に感染させる危険性を自覚してください。
(あなた方の世代に風疹患者が特に多く発症しています)
- 全国の事業体と一般の皆さんに強く訴えます！
風疹抗体検査、予防接種(MRワクチン)がこの世代に実施されるようただちに行動をとってください。

*わが国でまた風疹が流行しています！！

妊娠20週頃まで(主に妊娠初期)に風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性風疹症候群になるおそれが生じます。

*風疹が流行している地域への海外渡航は風疹ウイルスに感染するリスクがあります。渡航の際は事前にMRワクチンを接種するなど万全の風疹予防対策をとってください。また帰国後に発症して周囲に風疹を感染させることもあるので十分に注意してください。

—2019年2月“風疹ゼロ”プロジェクト—

参考資料1 2018年1月16日

風疹が流行している地域(*1)：2015-2016年の報告数：

トップ20 WHO ホームページより

国名	2016年	国名	2015年
インド	8274	中国	8133
中国	4535	インド	3252
インドネシア	1238	インドネシア	2156
スーダン	996	ウガンダ	1055
南アフリカ共和国	819	スーダン	1052
ネパール	656	ベトナム	798
パキスタン	648	ネパール	626
ナイジェリア	503	ナミビア	625
ベトナム	413	コンゴ民主共和国	464
ケニア	331	ケニア	422
ギニア	289	ナイジェリア	419
ウガンダ	289	中央アフリカ共和国	354
トーゴ	276	エチオピア	328
コンゴ民主共和国	204	パキスタン	282
マダガスカル	204	カメルーン	277
コートジボワール	192	ウクライナ	248
エチオピア	184	タイ	240
フィリピン	179	アンゴラ	228
バングラデシュ	165	バングラデシュ	189
ウクライナ	150	アラブ民主共和国	177

“風疹ゼロ”プロジェクト（概要）

1 プロジェクト提案内容

本邦における風疹流行に伴う先天性風疹症候群の発生をゼロにするために、2017年2月を起点として開始され、①【麻疹風疹＝MR】ワクチン接種推進を全国規模で啓発を行うとともに、②積極的なワクチン接種推進策を提言し、③未接種者の低減化に向けた有効な方策等を提言、発信する。

2 背景ならびに概要

■風疹はこれまで反復して流行し、多くの先天性風疹症候群の児が出生している。現在もなお、流行する準備状態にあり、大規模国際交流イベント開催時には大流行する傾向があることから、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催時の流行も懸念されている（最近の流行年：2004年、2013年、2018年）。さらに、下記の2点が流行の背景として課題となっている。

- ・海外から輸入感染症として職場、家庭に持ち込まれる場合が多く、海外渡航先での感染にはとりわけ注意する必要がある。
- ・特に30代から50代の男性は風疹抗体保有率が低く、しかも渡航の機会も多く、国内での流行の感染源となりやすいためハイリスクである。

■2020年度までに“風疹の排除”（厚生労働省目標設定）の実現を！

■協力要請組織、共同行動組織、機関

厚生労働省、経済産業省、外務省、各都道府県市区町村、国立感染症研究所
日本医師会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会、
日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本耳鼻咽喉科学会、日本感染症学会、
日本ワクチン学会、日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会、日本細菌学会、日本呼吸器学会、
日本環境感染学会、日本渡航医学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本衛生学会、日本産業衛生学会、
日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本医療・病院管理学会、日本医療情報学会、日本集団災害医学会、
全国保健所長会、地方衛生研究所全国協議会、全国衛生部長会、全国機関 衛生学公衆衛生学教育協議会、予防接種推進専門協議会、一般社団法人
社会医学系専門医協会、日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会、日本保育園保健協議会、
一般社団法人日本ワクチン産業協会、マスメディア各社、広告情報業界
企業、事業体、財界・業界団体、経済界
風疹をなくそうの会 ほか関係者
日本医療研究開発機構研究事業（ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究） その他 （順不同）

■期間日程 2016年度—2020年度（オリンピック・パラリンピック年）までの期間

■行動計画：

- ①組織形態の整備と実行：日本産婦人科医会に事務局を設置
- ②注意喚起メッセージ（共同声明）発信、啓発活動：毎年2月4日【風疹（ゼロ）の日】、および2月いっぱい1か月間を“風疹ゼロ”月間として啓発に努める。
- ③“2020風疹排除”に向けた啓発、ワクチン接種推進等の立案・計画・実施工動

■ “風疹ゼロ”プロジェクトホームページ <http://www.jaog.or.jp/rubella/>

■ “風疹ゼロ”予防啓発ポスター（国立感染症研究所感染疫学センター）

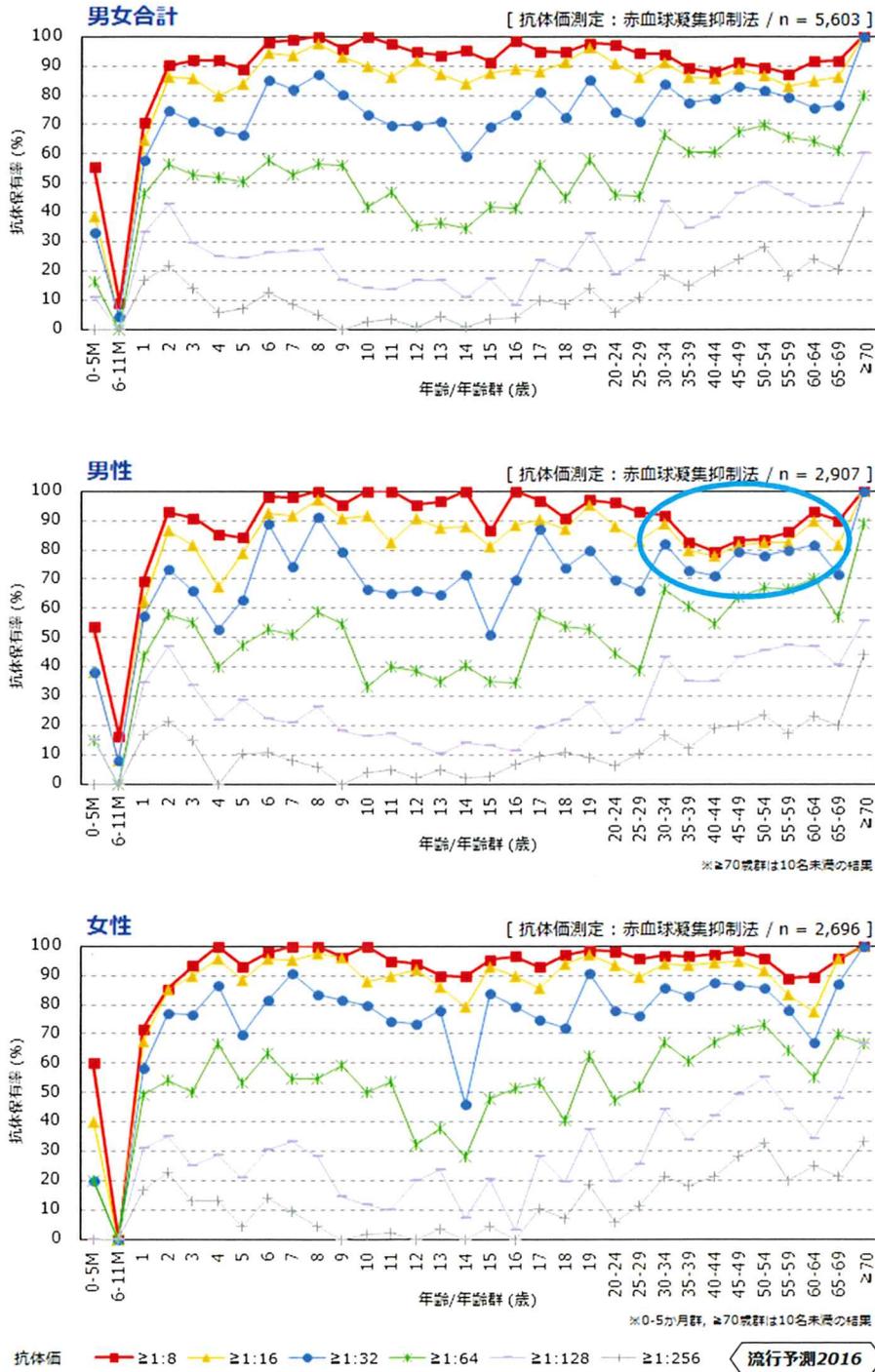
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-poster2013.html>

（問い合わせ先）公益社団法人日本産婦人科医会 事務局 田中
〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町14番地 市ヶ谷中央ビル
TEL: 03-3269-4739 FAX: 03-3269-4730 <http://www.jaog.or.jp/>

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2016年^{※1}

～ 2016年度感染症流行予測調査より ～

※1 主に2016年7～9月に採取された血清の測定結果：2017年3月現在暫定値



【2016年度風疹感受性調査実施都道府県】

北海道, 宮城県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 石川県, 長野県, 愛知県, 三重県, 山口県, 高知県, 福岡県, 沖縄県